

全社共通のプラットフォーム 『eValue V 2nd Edition』を活用して 業務効率化を実践中



『eValue』のドキュメント管理機能を生かして、10万点にも及ぶ設計図面のデータを活用している

株式会社田村工機は、50年以上の長きにわたり、段ボール製包装パッケージの抜型を製作するパイオニア企業だ。早くから社内のペーパーレス化と情報共有に着手し、そのツールとしてOSKの統合型グループウェア『eValueシリーズ』をフル活用している。同社は、電子帳簿保存法への対応をはじめとした、更なる業務効率化を求めて、2023年7月に『eValue V 2nd Edition 総合』へとバージョンアップした。ポータル画面へ情報を集約し、従業員が意識することなくさまざまな社内システムを利用できる、理想的な環境を実践している。

導入の狙い

- ・社内のペーパーレス化を促進したい
- ・設計図面の版管理と情報共有の実現
- ・電子帳簿保存法に対応した業務基盤の強化

導入システム

- ・統合型グループウェア『eValue V 2nd Edition 総合』

導入効果

- ・システム内で設計図面を検索して参照できる
- ・タブレットでの情報共有により紙での印刷は不要に
- ・ポータル画面で多様な業務システムを一元的に管理できる

USER PROFILE

株式会社田村工機

【業種】製造業

【事業内容】段ボール・紙器用抜型および関連資材・装置の製造・販売、段ボール・紙器製品の企画・設計デザイン・販売

【従業員数】57名(2023年9月現在)



2023年9月取材

段ボール製品用抜型のパイオニア 女性も働きやすい環境を整備

近年、環境問題の観点から、段ボールの包装材そのものに緩衝機能を持たせたものが注目されている。1969年設立の株式会社田村工機(以下、田村工機)は、段ボール製包装材の抜型(ぬきがた)を製作する専門メーカーである。段ボール・紙器用抜型の製造・販売および関連資材の販売、段ボール製品の企画・設計・デザインを主な事業内容とし、高い成型品加工技術で、全国の段ボール包装材メーカーの多様な要望に答えている。オーダーメイドの抜型製作も、受注から2〜3日で納品できる体制を整え、顧客ニーズに確実に応える技術力と信頼の積み重ねが同社の最大の強みだ。

神奈川県川崎市に本社を構え、大阪にも営業拠点を開設、グループ会社の株式会社東北田村工機と株式会社九州田村工機とともに全国展開する。

長年、男性の職場とされてきた製造業の現場だが、近年は女性の活躍が目覚ましい。同社も、ものづくりの現場における女性の活躍を推進している。また、研修を通じて従業員の能力開発や教育訓練を行っている人材育成の取り組みが評価され、2022年に『かわさきSDGsゴールドパートナー』の認証を取得した。ここ数年は多くの女性従業員が現場で勤務し、丁寧でこまやかな作業は制作物の品質向上に繋がっている。

代表取締役の佐藤社長は、「コロナ禍では、打ち合わせをお客様の工場内に入らざるに、などの対応はありましたが、ビジネス面での影響はほとんどありませんでした。むしろ、巣ごもりによる通販利用の増加で、段ボール包装パッケージの需要は増え、当社にとっては追い風となりました。また、今後想定される人材不足への対策として、製造現場や営業への研修に力を入



段ボール抜型の製造作業風景。田村工機では女性従業員も多く活躍している

れてきた成果か、近年は募集を大幅に上回る応募があり手応えを感じています」と語る。

紙保存からの脱却 電子帳簿保存法へも対応

以前は紙を前提として業務が動いていた同社では、社内の連絡事項は、手書きメモ

を壁に貼って掲示していた。作業指示や設計図面等についても紙で渡すこともあったという。

業務課の高橋課長は、「営業担当者からの情報を基に作成する作業指示書は、多い日は30件ほどになります。出来上がった作業指示書は、設計図面などの資料と一緒に製造現場に渡しますが、サイズが

代表取締役
佐藤社長



「もともとはアナログな会社でしたが、『eValue』の導入で一気にデジタル化が進展しました。拡張性に優れた『eValue』を今後もフル活用していくつもりです」

営業部・業務部・製造部・
システム管理室
田村統括部長



「『eValue』のポータルから自作の業務システムを利用できる効果は大きいです。今後、どのような会社でも利用すると思われるツールが標準実装されると、一層便利になるだろうと期待しています」

大きいため、USBを利用するなど、以前は送付にとっても手間がかかっていました」と説明する。

また、10万点以上に上る過去の図面も全て紙で保管していたため、探し出すのに30分以上かかることもあったという。

このような状況を解消するため、同社は取引のあるリコージャパンに相談して、2016年6月に統合型グループウェア『eValue NS 2nd Edition 総合』を導入。そして、2023年7月に『eValue V 2nd Edition 総合(以下、eValue V2)』へとバージョンアップ。電子帳簿保存法などへの法改正対応の一環として、今回「タイムスタンプオプション」を新たに導入し、電子データに対して改ざんなどの不正が行われていないことの保証と、正当性・信頼性を証明する環境を整えている。

具体的には、「ワークフロー」で経費精算を行う際に、領収書に対してタイムスタンプを付与し、「ドキュメント管理」でその領収書を保存している。一方、請求書については、『RICOH証憑電子保存サービス』を利用してクラウド上で管理することで、閲覧・検索の容易にするとともに、電子帳簿保存法の真実性を確保している。

『eValue V2』で 情報共有環境を一気に推進

同社は、『eValue V2』が提供している「ドキュメント管理」「ワークフロー」「スケジュール」「コミュニケーション」の全ての機能を活用して、ペーパーレス化と情報共有を一気に進展させている。

かつて、ファイルサーバーに保管していた設計図面などは、ファイルの命名ルールが統一されておらず、最新版の判断が曖昧だった。しかし、その問題は「ドキュメント管理」での版管理により一気に解決した。ファイルの更新履歴から最新版や必要データを瞬時に判断して、参照できるようになったのだ。

「営業担当者にはタブレットを支給している



複合機でスキャンした設計図面(左画面)を「ドキュメント管理」(右画面)に登録することで、データの検索性は格段に向上した

ので、外出先からもデータ確認が可能です。会議の際も、『ドキュメント管理』に保存してある資料は紙で印刷することなく、タブレット上で閲覧しています」(高橋氏)

約10万点の設計図面は、今後2年間で複合機を用いて全てデータ化することを予定している。進捗状況はまだ10分の1程度ではあるものの、今後の利便性が高まることを確信している。

従業員の有給休暇や経費精算、稟議などの申請承認作業で活用されている「ワークフロー」は、社内のペーパーレス化とスピードアップに大きく貢献している。

会社全体や個々の従業員のスケジュール管理に加え、同社独自のユニークな活用をしているのが「スケジュール」だ。コロナ禍の感染対策の一環として、朝の出社時に各自の体温を記入することを周知徹底し、体調管理に対する意識付けを促しているのだ。

営業部・業務部・製造部・システム管理室の田村統括部長は、「毎朝、自分の体温を入力する必要があるので、『eValue V2』を必ず立ち上げる習慣が身に付きます。それによって、掲示板に掲載した連絡事項などを見落とす心配

がなくなることも狙いの一つです」と説明する。

社内システムをポータル画面に 集約して活用

今回の『eValue V2』バージョンアップを機に、同社ではこれまで以上にさまざまなシステムと連携する環境を整備した。その原動力となったのが、システムエンジニアの経験がある田村氏と、デザインセンスに優れた高橋氏だ。両名でアイデアを出しながら、日常業務に必要な独自のシステムを開発して『eValue』と連動する仕組みづくりを進めていった。

『eValue V2』のポータル画面には、田

業務課
高橋課長



「以前は、膨大な量の設計図面の中から30分以上かけて必要書類を探していましたが、現在は、検索から一瞬です。その分、ほかの業務が行えるので、残業時間は確実に減りました」

村氏作の売上管理システムと連携して、リアルタイムで売上実績が表示されている。

「営業担当者は、自分の売上達成率が一目瞭然なので、必然的に発奮材料となっています」(田村氏)

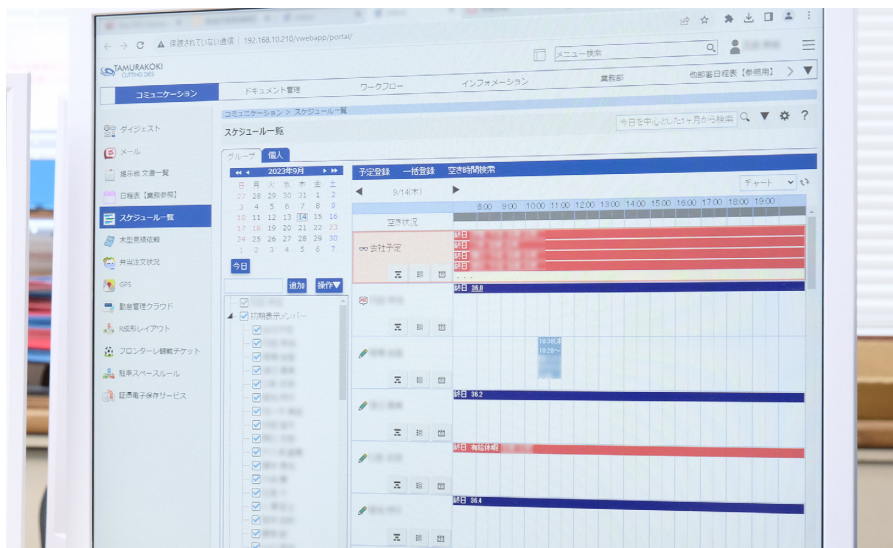
また、従業員の残業時間をポータル画面上に表示したところ、社内で残業を減らす機運が高まり、実際に残業時間が削減された。毎日「スケジュール」に退社予定を入力しており、実際の退社時間と大きく乖離がある場合は、その原因や対策をミーティングで話し合うなど、残業を減らす取り組みを行っているという。

また、GPSソフトウェアと連動させて、営業車両が今どこにいるのか地図上で見える仕組みも実装している。これは、営業の状況や帰社時間が推定できるので、急ぎの案件が生じた際に役立っているという。

ほかにも、福利厚生の一環として行う健康診断の予約や、地元企業としてサポートするJリーグ川崎フロンターレの年間シートの座席予約ができるようにするなど、ポータル画面上で手軽に処理を行える工夫を施している。

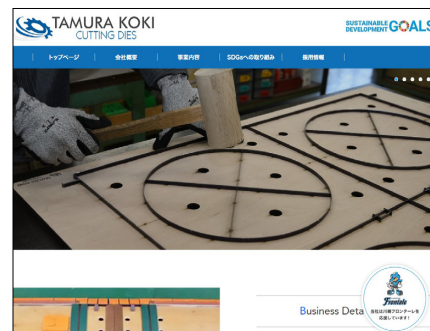
『eValue V2』の業務ナビ機能も活用している。各部署の業務の流れをフローチャートで可視化し、誰でも閲覧できるようにしたことで、新人の従業員であっても迷いなく作業が進められるようになった。

「業務ナビ機能は、少しハードルが高いイ



「スケジュール」機能で従業員の勤務状況を一画面で可視化メージがありましたが、使い始めるとすごく便利でした。品質向上や人材育成に役立っていて、従業員からも非常に好評です」(田村氏)

今や田村工機の日常業務に不可欠な情報共有ツールとして社内に定着している『eValue V2』。今後も更なる工夫を加えながら、同社の業務効率化の最前線を担っていくことだろう。



株式会社田村工機のホームページ

<https://tamurakoki.jp/>

お問い合わせ

・会社名、製品名などは、各社または各団体の商標もしくは登録商標です。
 ・事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は取材当時のものであり、配付される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。
 ・この記載内容は2023年12月現在のものです。
 Copyright©2023 OSK Co., LTD. All Rights Reserved.

株式会社OSK
 マーケティング本部
 〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1
 TEL:03-5610-1651 FAX:03-5610-1692
<https://www.kk-osk.co.jp/>